

京 都 府

京都府退職校園長会

設立 昭和41年5月22日

京都府連合退職校園長会は、全連退創設1年後の昭和41年5月に、京都府内13地域の退職校園長会が連合体となり全連退に加盟した。本年度、創設以来58年の歴史を刻んできたことになる。

平成16年末に起きた一部地域の理不尽な脱会に続いて、更に17年度には、5地域が次々と離脱して、7地域の連合体として運営されてきた。その後、京都府連合退職校園長会（府連退）では、運営についての種々の改革がなされ、それぞれの地域の独自性を尊重しながら、全連退のもとに結集する連合体として運営されてきた。

さらに今回、令和4年度末から令和5年度にかけて、4地域の一斉「退会」で、創設時13地域の退職校（園）長会から、令和6年度当初には3地域（会員数1,050余名）の組織となった。現在の傾向として、児童生徒の減少、定年制延長、役職定年制の導入などによる会員減少の波は、都市部よりも過疎地域の方が顕著に表れやすい。また、コロナ禍による活動の低下も影響が大きいと思われる。

これらは、全連退への帰属意識が薄くなってしまったことも要因として挙げられるが、組織本体の活動の低下も大きな要因となっている。

京都では、今回の事態を受け止め、令和5年度から組織検討委員会を立ち上げ、会員減少時代の組織改革として、この2年間、新しい組織の在り方を検討してきた。

最も大きな改革は、府連退と最大勢力である「京都市退職校園長会」の本部組織が、府の組織と統合され、一つの本部になったことである。京都市の支部組織は、行政区ごとに独立した「地域退職校園長会」となり、他地域の退職校園長会と並列した組織となる。

この改革により、府の構成組織が3地域団体から13地域団体となり、役員会の活性化や地域団体の事業や会計の見直しを行い、更に充実した活動になるように改革を推進している。団体名も「京都府退職校園長会」と改め、新生「府退連」として、今後の活動の充実を図っていききたい。



2025.2. 1 令和6年度臨時総会・聖護院御殿荘